

屋外飼育による去勢牛の体重 600kg 仕上げの可能性について

—とくに肥育後期における増体低下の防止について—

黒木 寛・横山文泰・岡師隆一・岩下 忠

長友邦男・井好利郎・横田 修・初鹿健三

(宮崎県総合農業試験場)

KUROKI, H., YOKOYAMA, H., ZUSHI, R., IWASHITA, T.,
NAGATOMO, K., IYOSHI, T., YOKOTA, O. and HATSUSHIKA, K.

Possibility of Finishing to 600 kg Body Weight on the Feed Lot

Performance of Fattening Beef Steers

—On the Prevention of a Decline of Body Weight Gain

in the Latter Period of Fattening—

1. 試験目的

最近、若令肥育の仕上げ体重が大きくなる傾向がみられるが、これに対して屋外飼育方式による体重 600kg 仕上げの可能性を検討した。第 1 回は京都大学ほか協定 8 場所で試験を行なったが、肥育後期とくに体重 500kg 到達以後の濃厚飼料採食量の停滞、1 日当たり増体量の極端な低下が目立った。今回はこれの改善策として、肥育中期まで濃厚飼料を制限給与する方法を当场独自で行なったので、その結果を報告する。

2. 試験方法

供試牛は生後 8 ヶ月令の黒毛和種去勢子牛を 6 頭 1 群として、56 週間(392日)肥育した(47. 10. 25~48. 11. 21)。濃厚飼料は肥育開始後 42 週まで体重の 1.4%、それ以後は自由採食とした。粗飼料は生草を 29 週まで(以後は給与中止)、乾草は全期間自由採食とした。稲わらは全期間濃厚飼料の 10% 量を細切して、濃厚飼料に混合して給与した。体重 350kg と 450kg 到達時に肥育促進用のホルモン剤を注射した。飼育場の 1 頭当たりの面積は 10m² とした。

3. 試験成績

増体状況は図 1 に示すとおり、体重 234kg から始め 634kg に仕上げた。この間の 1 日当たり増体量は 1.02kg です

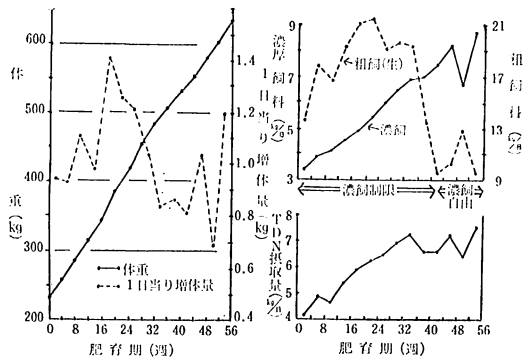
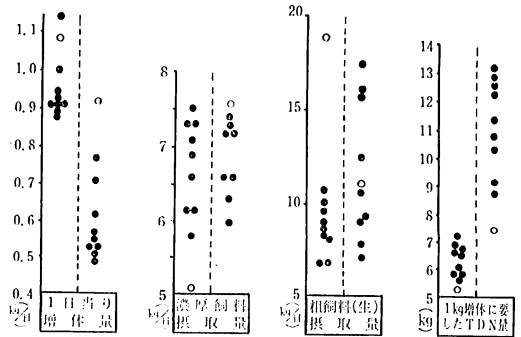


図 1 増体、飼料及び養分摂取状況

ぐれ、その変動係数も 6.6% と小さかった。濃厚飼料の採食量は肥育期の進むにつれて増加したが、粗飼料は肥育後期に生草の給与中止もあって採食量が減少した。一方、TDN 摂取量は肥育後期に停滞傾向がみられたが、減少はしなかった。これらの成績を体重 500kg 到達以前と以後に分けて第 1 回試験と比較すると、図 2 に示すとおりである。いずれの項目でも今回の成績は前回よりも体重 500kg 到達以後の数値がよくなった。この理由としては、肥育中期までの濃厚飼料の制限給与が肥育後期における濃厚飼料採食量の増加を招き、1 日当たり増体量にも好影響をおよぼしたものと思われる。

4. 要 約

屋外飼育方式による体重 600kg 仕上げ、とくに肥育後期における濃厚飼料採食量の停滞、1 日当たり増体量の極端な低下を防ぐため、濃厚飼料を肥育中期まで制限給与したが、ほぼ目的を達成できたものと思われる。また 1 頭当たりの濃厚飼料採食量は 2,340kg であり、第 1 回試験の 9 場所の平均値よりも約 600kg 少なく経済的でもあった。



- ① 各項目の点線より左側は体重 500 kg 到達以前、右側はそれ以前を示す。
- ② 白丸は今回の当场、黒丸は第 1 回の 9 場所の各平均値を示す。

図 2 体重 500kg 到達以前と以後の肥育成績の比較